

中学校（4校）

【今年度の取組】

- 非認知能力についての教職員の理解の醸成
- 職員全員で学校教育目標、目指す生徒像の意識合わせ
- 小中学校の職員全員で、小中一貫で目指す子供の姿が、より具体的になるように協議、検討、意識合わせ
- 目指す生徒像についての行動指標の検討と作成

- 行動指標を基に、身に付けさせたい力を共通に理解した上で、学校行事の計画立案
- 小中学校合同での研修会や、非認知能力の育成を目指した授業提案と授業研究会の実施
- 非認知能力をキーワードにした義務教育学校開校に向けた開校準備室の運営と小中合同の行事の実施
- 生徒が中心となった活動の場づくり
- 複数担任制導入を目指した工夫

【具体的な生徒の活動】

- ・生徒が参画した小中合同運動会の開催
- ・校則の改定についての生徒会の取組

【成果】

- ・教職員の理解の醸成を丁寧に行うことで、教職員の意識合わせが進み、生徒が主体となった活動への準備が進んでいる。

高等学校（2校）

【今年度の取組】

- 非認知能力についての教職員の理解の醸成
- 職員によるスクールポリシーの策定、見直し

- 生徒・保護者への非認知能力についての啓発活動
- 非認知教育に関する通信の発行

- 職員による具体的な取組例の検討
- 次年度の時間割の工夫

- 学校運営に生徒も参画できる場づくり
- 生徒が創る学校検討・提案委員会の設置
- 次年度の学校行事計画の作成に生徒が関わる場の設定

【具体的な生徒の活動】

- ・校則の見直し
- ・「スキー教室」の計画立案、実施
- ・生徒主体の委員会活動の活性化
- ・文化祭の隔年開催を、毎年開催にするための生徒の活動

【成果】

- ・生徒が学校運営に参画する場面を増やすことで、生徒の自発的で主体性のある活動が見られるようになってきている。